

来て!見て!知って!文化財

塩古墳群

—古墳の形をめぐる調査の歴史— 塩328他

県指定史跡「塩古墳群」は、古墳時代前期(3世紀後半から4世紀終わり頃)に造立した古墳群であり、7つの支群によって構成され、75基の古墳が確認されています。その多くは、弥生時代の流れを引き継ぎ、大小二つの四角形を連結させた形の「前方後方墳」と四角形の「方墳」に分類されます。

平成5年に、古墳群の中心となるI支群1号墳の発掘調査が行われ、古墳の周りの溝から、埋葬者に供えられたと推定される土器が出土しています。この調査では、古墳の隅がほぼ直角に折れ曲がるのが分かり、全長35.3メートルもの規模を有する「前方後方墳」であることが判明したのです。

昭和30年代頃の調査では、この1号墳と隣接する2号墳は「前方後円墳」と認識されていました。しかし、昭和53年に測量調査を行ったところ、後円部が丸ではなく平らで直線的な形状

が示されました。昭和56年の再調査の際には、更に測量の精度が上がり、各辺が直線的になる「前方後方墳」の可能性が高くなったのです。

そして平成5年の発掘調査によって、墳形が「前方後方墳」として確定し、周囲に残されていた古墳も円墳ではなく、方墳であることが分かりました。これにより前方後方墳と方墳で構成された、当地で最も古い時代の古墳群であるという特質が明らかになったのです。このことから塩古墳群は、県内の古墳の始まりを考える上で重要な意義を持っています。(山下祐樹)



◆江南文化財センター ☎048-536-5062